

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和3年度 第8回佐渡市入浴施設あり方検討会
開催日時	令和4年1月12日(水) 13:30~15:10
場所	金井コミュニティセンター 1階小会議室
会議内容	1 開会 2 議事 1) これまでに協議された内容の確認について 2) 入浴施設の具体的な活用方法について 3) 報告書の内容について 4) その他
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	≪入浴施設あり方検討会委員≫ (6名) ≪市役所≫ (3名) ・事務局 市民生活課長 磯部 伸浩 温泉施設係長 池 雅彦 温泉施設係主事 川上 一貴
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	3人
備考	

会議の概要 (発言の要旨)	
発言者	議題・発言・結果等
委員	1 開会 入浴施設の検討にあたり、当初は委員の方々の入浴施設に関する認識、知見、各施設の経営実態、運営のあり方、行政の関与などに対する考え方がかなり乖離していた。検討会の回を重ねていく中で少しずつ方向性を見出し、合わせ、議論がまとまってきた。今回は報告書の内容について協議していきたい。
事務局	2 議事 1) これまでに協議された内容の確認について 報告書の作成にあたり、これまで発言された委員の意見を集約した。発言内容は議事録を抜粋して別資料にまとめた。(3件の意見を集約した内容を例示で説明)

委員	<p>各委員の発言内容は毎回議事概要の作成時に確認してもらっており改めて確認は必要ないのではないか。この意見を基に報告書を作成したとのことだが、何か意見はあるか。</p> <p>(意見無し)</p>
事務局	<p>2) 入浴施設の具体的な活用方法について</p> <p>(令和3年度から入浴施設で行っている市民の健康増進を図る事業を実施していることを説明)</p>
委員	<p>利用促進の話題は報告書にも書かれているため、ここでは議論せず次で議論する。</p> <p>ここで言っておきたいのは、こういった取り組みをしながら佐渡市は広報PRが下手。地域で説明会などがある際にも説明が無い。部署間の横の連携ができておらず、市民に認識してもらう努力が不足している。入浴施設を防災の立場から検討するにしても、防災管財課と連携して進めるなど、佐渡市役所の横のつながりを使いオール佐渡で取り組まなければ解決しない。</p>
委員	<p>3) 報告書の内容について</p> <p>報告書1 ページ目、建議する5項目についての表現を確認したい。市長から5項目を検討するよう依頼されて建議するのか、審議した結果、5項目を建議するという事か。</p>
委員	<p>議論した中で、大きく5つの項目に分けて提言したい、という意味が正しい。</p>
委員	<p>「審議した内容を次の5項目に集約して報告する」という意味ならよい。</p>
委員	<p>事務局で体裁を修正してほしい。</p>
委員	<p>提言内容(1)「民間施設を含めた適正な施設数及び配置」の内容に異論は無いが、最初に入浴施設の活用成果を述べておくとバランスよく見えるので修正してほしい。</p>
事務局	<p>了解した。修正する。</p>
委員	<p>確認だが(1)①の主旨は、市民の健康のために入浴施設を維持することは必要である、ということ。②の主旨は、入浴施設のために市民一人当たり2,000円以上の税金が費やされているのもっと効果的な運用をすべきと言っている。以降は指標に基づいて進めてほしいということ。各指標の具体的な計算方法だけ別紙にまとめてしまっただけは報告書として歯切れが悪いので追記してほしい。</p>
事務局	<p>了解した。追記する。</p>
委員	<p>提言内容(2)「施設利用者数の減少抑制策」の項目に対し意見はあ</p>

委員	<p>るか。</p> <p>先に委員が発言した、オール佐渡による事業周知の徹底を記述に盛り込むべき。また、具体案の中で働き盛りの年代に関する記述が無い。働き盛り世代の健康づくりの視点として、互助会の活用などの話をすべき。</p>
委員	<p>入浴施設で体力測定や健康年齢が気軽に測定できるような定期イベントがあれば、若い世代が健康を意識する機会につながる。毎月 TV や回覧板で情報提供してほしい。</p>
委員	<p>確かに若い世代の視点は重要。積極的に LINE 等 SNS を用いて広報を活用し市民への訴求を図ってほしい。</p>
委員	<p>市民の入浴施設に対する意識を、住民の福祉から積極的な健康増進の視点に切替えていく必要がある。</p> <p>今まで常連など限られた客層だけが入浴施設を利用していたと思うが、距離が離れている人も訪れやすく幅広い客層が利用できるよう取り組んでほしい。</p>
委員	<p>島内でいろいろな種類の温泉を体験できる入浴施設ツアーがあっても面白い。</p>
委員	<p>スポーツに関する記述が（２）「施設利用者数の減少抑制策」（３）「島民以外の利用度の向上策」の両方に記載されていることに違和感がある。島外者からみると読み分けできないので整理した方がよい。</p>
委員	<p>利用者層を高齢者と子どもに限定しすぎている。より広い世代を対象にすべき。</p>
事務局	<p>指摘のあった内容を修正する。</p>
委員	<p>提言内容（３）「島民以外の利用度の向上策」について①の記述はネガティブな情報であり削除してもよい。③をもっと強調すべき。</p>
委員	<p>そもそも減収を観光客で補おうとする発想が間違っている。</p>
委員	<p>（３）①を削除し、③を一番上に移動してほしい。</p>
委員	<p>佐渡では民泊施設が増加しており、民泊利用者に対し入浴施設を案内できるマップを配布してほしい。またマラソン等のアクティビティで来島するお客様にもっと日帰り温泉があることを宣伝してほしい。</p>
委員	<p>佐渡観光ナビで日帰り入浴施設を検索してもあまりヒットしない。観光関連の部署と連携し、もっと温泉と絡めた観光を PR できるとよい。また、ふるさと納税のお礼状に案内のチラシなど次につながる資料が入っていると効果的なので、各部署で連携してほしい。</p>
事務局	<p>（提言内容（４）「入浴施設の有効活用策」を資料に基づき説明。防災計画による入浴に関連する施設の避難場所、避難所の指定状況を及び防災部署への聞き取り内容を説明）</p>
委員	<p>この項目については、内容をもっと簡潔にまとめてほしい。例えば</p>

	<p>地区の自治会と施設管理者が直接協定を結び、災害時に施設を避難所として利用できるよう提言することもできる。現在市が避難所に指定していなくても、地域との協議の中でこれから指定避難所にすることはできるのではないか？</p>
委員	<p>入浴できる避難所とできない避難所でサービスに差が生じてしまうことによる不公平感を行政が気にするのなら、入浴できない市民のために入浴支援を行うだけでも施設に価値がある。</p>
委員	<p>近年の九州北部の水害でも、近隣の温泉施設が無料で開放された事例がある。災害時において入浴できる温泉は有用であり、災害時の施策には意義がある。</p>
委員	<p>千種地区でも過去の災害時に入浴施設と協議し、無料で入浴できる対応を取った経験がある。入浴施設と地域が平時にそういった仕組みを考えておいてもいいのではないか。</p>
委員	<p>提言内容(5)「介護予防等福祉分野との連携」については、介護予防教室等に関わるボランティアやスタッフにメリットがあるような施策が望ましい。ボランティアポイントが入浴に利用できるなど。</p>
委員	<p>ポイントでなくてもスタンプ3倍など単純な仕組みでかまわない。</p>
委員	<p>スタッフのモチベーションにつながる支援策があるといい。利用促進のための提言なので、実際に採用するかは市が判断すること。</p>
委員	<p>提言内容(5)「介護予防等福祉分野との連携」は、健康づくりとも関連する話なので、項目をもっと前に持ってくるべき。(1)「民間施設を含めた適正な施設数及び配置」については重要ではあるがネガティブなので最後に回してはどうか。</p>
委員	<p>(1)「民間施設を含めた適正な施設数及び配置」が一番検討会で議論されていたのは間違いないのでこのままでいい。(5)「介護予防等福祉分野との連携」を(2)「施設利用者数の減少抑制策」に移動させたほうがいい意見はそのとおり。</p>
	<p>これら意見を踏まえ事務局は報告書を修正してほしい。</p>
	<p>報告書の大意は、現状話し合われた内容でまとめてよろしいか。</p>
	<p>(意見無し)</p>
事務局	<p>4) その他 報告書を修正し、改めて委員に配布する。提出スケジュールについては委員長と渡辺市長の都合を見て提出したい。</p>
	<p>3 閉会</p> <p style="text-align: right;">(15:10)</p>